

新型コロナウイルス感染症対策

国立感染症研究所によれば、変異株への対策としては、従来株と同様に、「3つの密」（特にリスクの高い5つの場面）の回避、マスクの着用、手洗いなどの基本的な感染症対策が推奨されています。感染者を一人でも多く減らしていくため、従来以上の危機意識を持って、感染症対策に取り組んでいく必要があります。学校においては、手洗いや咳エチケット、換気といった基本的な感染症対策に加え、感染拡大リスクが高い「3つの密」を避ける、身体的距離を確保するといった感染症対策を徹底することが必要です。
(学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル(2021.4.28 Ver.6)より)

基本的な感染症対策

感染源を絶つこと 学校内で感染源を絶つためには、外からウイルスを持ち込まないことが重要です。

・発熱等の風邪の症状がある場合等には登校、出勤しないようにする。

→①登校前に担任や担当はリーバーで児童の健康チェックを確実に行う。登校時に児童は石けんで手を洗う。

②教職員は毎朝の健康チェックを行い、リーバー等で記録をする。出勤時は玄関で手指消毒を行う。

・発熱等の風邪の症状がみられる場合には、児童を安全に帰宅させ、症状がなくなるまでは休養する。

→①登校後に体調不良を訴えた児童は、保健室で対応後に熱が無くても保護者に迎えにきていただく。

②熱がある場合には保健室以外(会議室等)で待機し、他の児童と接触しないよう配慮する。

感染経路を絶つこと 新型コロナウイルス感染症は、一般的には飛沫感染、接触感染で感染します。

・飛沫、接触感染を避ける。

→①6つのタイミングに石けんで手洗いをして清潔なハンカチで拭く。

②給食当番は手指消毒をする。全員で黙って準備をして、黙食をする。

③うがいや食後の歯みがきで口腔内の清潔を保つ。

④手指で目、鼻、口をできるだけ触らないようにする。

⑤咳エチケットを徹底する。(マスクは鼻を出さずに正しくつける)

⑥換気や日常の清掃により清潔な空間を保つ。(もくもく清掃)

⑦大勢がよく手を触れる(ドアノブ、手すり、スイッチなど)は消毒を適切に行う。

手洗いの6つのタイミング



身体全体の抵抗力を高めること 睡眠、適度な運動及びバランスの取れた食事が大切です。

・規則正しい生活、身の回りが清潔な生活を送る。心の健康を保てるようにする。

→①学級で「うまきたえて」の指導を行う。 ★おススメ資料・動画 T:職員会議資料の中

「う」うがいをする、「ま」マスクをする、「く」空気の入替え(換気)をする

「き」規則正しい生活を送る、「た」体力をつける、「え」栄養のバランスをとる、「て」手洗いをする

②学級で差別・偏見・いじめ防止の指導を行う。 ★おススメ資料・動画 T:職員会議資料の中
子供たちが感染症に対する不安から陥りやすい差別や偏見などについて考える。

集団感染のリスクへの対応 3つの条件(密閉、密集、密接)が重なる場で、集団感染のリスクが高まるとされています。

・「密閉」の回避(換気の徹底) ※この3つの条件は重ならなくても1つでもリスクがあります。

→常時、廊下の窓や教室等のドアと窓を開けて2方向換気を行う。体育館では窓や扉を開けるようにする。

・「密集」の回避(身体的距離の確保)

→人との間隔は、できるだけ2メートル(最低1メートル)空ける。じゃれ合うような行動は避ける。

・「密接」の場面への対応(マスクの正しい着用と適切な扱い)

→マスクを外す際にはゴムやひもをつまんで外し、なるべく表面には触れず、内側を折りたたんで清潔な袋や布等に置くなどして清潔を保つ。最後に…※各教科・領域のガイドラインを確認する。